

### 第 1 回生徒による授業評価の分析

1. 学年毎の傾向（評価 3，4 の割合） ※網掛けは 80%未満のもの。

○1 年生

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	93%	94%	92%	97%	94%	86%	86%	94%
地理歴史	88%	79%	81%	87%	87%	73%	82%	92%
数学	92%	78%	76%	93%	93%	82%	89%	92%
理科	66%	53%	49%	53%	61%	47%	75%	77%
芸術	95%	95%	94%	63%	97%	94%	87%	96%
体育	90%	97%	95%	75%	94%	92%	87%	97%
保健	86%	87%	78%	63%	88%	69%	74%	92%
外国語	84%	79.6%	75%	81%	84%	72%	86%	89%
情報	97%	82%	84%	58%	95%	78%	79.7%	95%
総合	81%	84%	83%	99%	87%	77%	77%	88%

○2 年生

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	87%	81%	79.9%	84%	84%	71%	84%	88%
地理歴史	91%	74%	83%	79%	88%	78%	82%	86%
数学	87%	71%	79.8%	82%	85%	81%	86%	85%
理科	84%	57%	73%	83%	86%	75%	75%	80%
体育	93%	95%	91%	90%	90%	88%	94%	95%
保健	85%	85%	79%	68%	85%	68%	76%	86%
外国語	70%	71%	65%	76%	69%	62%	81%	81%
家庭	85%	81%	81%	90%	82%	75%	80%	87%
総合	74%	84%	79%	94%	75%	61%	78%	84%

○3 年生

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	90%	87%	91%	83%	93%	87%	87%	92%
地理歴史	91%	85%	88%	87%	94%	87%	88%	90%
公民	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
数学	88%	74%	88%	89%	95%	88%	89%	90%
理科	90%	75%	84%	89%	92%	88%	88%	88%
体育	86%	89%	88%	88%	88%	84%	88%	90%
外国語	90%	78%	84%	83%	91%	81%	87%	88%
総合	86%	87%	87%	84%	88%	82%	82%	88%

※ A：授業の準備・教材の工夫      B：授業の充実感      C：授業の進め方  
D：生徒主体の授業の工夫      E：説明のわかりやすさ      F：生徒への接し方  
G：学習への取組      H：態度・姿勢  
A～C：授業内容      D～F：指導方法      G～H：本人の取組状況

## 2. 学年毎の傾向の特徴

### ○全体的傾向

文系の数値（評価3，4の割合）は例年比較的高い傾向にあったが、今回は文理問わず、全体的に低い傾向にある。昨年の網掛け（80%未満）は70%台がほとんどであったが、今回は60%台、50%台、40%台があった。学年ごとの網掛けの数を昨年と比較したところ、1年では14個⇒26個、2年では7個⇒27個、3年では0個⇒3個と増えていた。

例年の課題点は、「B：授業の充実感」、「D：生徒主体の授業の工夫」、「F：生徒への接し方」の三か所であり、今回の調査でも80%未満が多かった。

80%未満が昨年より増えたと明らかにわかるものは、「C：授業の進め方」、「G：学習への取組」であった。

「C：授業の進め方」	80%未満	2016年	2教科	⇒	2017年	3教科	⇒	2018年	10教科
	90%以上	2016年	18教科	⇒	2017年	18教科	⇒	2018年	6教科
「G：学習への取組」	80%未満	2016年	0教科	⇒	2017年	1教科	⇒	2018年	7教科
	90%以上	2016年	14教科	⇒	2017年	16教科	⇒	2018年	2教科

と全体的に数値が低下しているとわかった。

### ○国語

数値が高い傾向にある。特に、1年は多くの項目で90%台を出している。

国語は、3学年を通じて、2個の項目について80%を下回った。すなわち、第2学年の「C：授業の進め方」（79.9%）と、「F：生徒への接し方」（71%）である。とりわけ「F：生徒への接し方」については、例年全教科において課題点として挙がる項目である。国語では、特にグループワーク等の活動できめ細かい見取りが求められているといえる。

第1学年においては、「F：生徒への接し方」は86%と及第点を得ている。しかし、担当教員の意見では、生徒一人ひとりの多様な言語活動を的確に見取り、支援することに困難を感じている。したがって、言語活動の基盤となる言葉の力をより伸ばせるよう、生徒一人ひとりの気づきや学びを最大限に生かせる授業デザインを今後の課題とする。

### ○地理歴史・公民

「B：授業の充実感」、「F：生徒への接し方」に例年通りの課題が残る。

「B：授業の充実感」、「D：生徒主体の授業の工夫」、「F：生徒への接し方」の項目が低い評価となっている。教科として「問い」をいくつか立て、その「問い」が理解できることで「B：授業の充実感」を補えると考え。また、「問い」を考える際は、発問の工夫やペアワーク等で「D：生徒主体の授業の工夫」の数値改善へつなぐ。「F：生徒への接し方」については、机間指導や振り返りシート等の活用により対応していく。

## ○数学

「B：授業の充実感」、「C：授業の進め方」に例年通りの課題が残る。ただ、「D：生徒主体の授業の工夫」の数値が上昇している。

### <1学年>

簡略化された伝えやすい教科書であるため、たんとと授業が進むが、簡略化されすぎており、充実感の乏しい授業内容になったと考えられる。今後は副教材等を参考にし、内容が変わらないように担当者同士で授業研究を行い、授業内容に厚みを持たせていきたい。

### <2学年>

授業内容の理解が低下し、連鎖して充実感が低下していると考え。また、受験科目ではない生徒のやる気喪失なども充実感の低下につながっている要因の一つと考える。今後は、既習問題を扱い、深く考えさせる時間を増やし、基礎・基本の練習を繰り返し学習させることを重視していきたい。

### <3学年>

どうしても板書の量が多くなり、演習に割ける時間が減る。生徒によっては解き終わらないまま答え合わせに入ってしまうため、達成感が得られず充実感の低下につながっていると考え。今後は扱う例題を的確に選抜することで演習時間を増やし、自宅学習でも補えるようにしていきたい。

## ○理科

1年では80%未満が多くみられ、2年も4項目と多く、改善が必要である。

1年生の理科では、化学基礎を実施しているが、目に見えない分子や原子について学習している。生徒にとって、体感することができず、理解することが難しい内容であったため、生徒の理解が進まなかったことから、教科への満足度が低い値となってしまった。また、2年生の理科では、化学探究、生物基礎を開講しているが、化学探究では主に、酸化還元反応や金属のイオン化傾向、金属の性質など、生徒にとって身近なものとして捉えることが難しかった。そのため今後、実習指導員と連携しながら、実験・実習などを取り入れ、生徒の理解を助けるとともに、実感を伴った、魅力的な授業を展開していく。

## ○保健体育

例年、体育は全学年ほぼ90%以上と高い水準で続いていたが、今回の数値は少し減少している。保健では、80%未満が1年4項目、2年4項目となり、今後の改善が必要である。

### 【体育】

体育に関して、1年生の「D：生徒主体の授業の工夫」で75%の数値が出された。その理由としては、1年生は運動の基礎的な基盤も弱く、その部分の練習に時間を割く必要があった。そのため、反復練習等が多くなり、生徒の主体性が低くなってしまったと推測される。

### 【保健】

・保健に関して、「C：授業の進め方」、「D：生徒主体の授業の工夫」、「F：生徒への接し方」について低い数値が出された。その理由としては、単元の特性（2年生は性の部分を中心であった）や、保健の基礎的な部分の学習が多く、教員主体で進めざるを得ない部分が多かったということが推測される。また、多くの情報を1単位の中で伝えていかなければならないという時間的な制限も要因として挙げられる。

ただ改善できる部分もあるため、教科会等で情報を共有しながら修正していきたい。

## ○外国語

例年、80%未満が各学年0～1項目であったが、今回は1年3項目、2年6項目と多く、改善が必要である。

知識を確認する作業的な課題に積極的に取り組む生徒が多い。100～150語作文などの創作的な課題に困難を抱えている生徒が多くいる。

「C：授業の進め方」について、ペアでの活動などを取り入れ、刺激のある時間を過ごさせるよう工夫していく。また、創作への意欲を育てるためにALTを活用していく。文法を理解するための説明と演習のバランスをとり、教材が難しい、進め方が速い、と感じている生徒を支援する。

## ○総合学習（総合的な学習の時間）

例年、90%以上がほとんどだったが、今回は数値が減少している。80%未満は、1年2項目、2年5項目と多い。3年では80%未満はないものの、90%以上がない結果となった。今後の改善が必要である。

例年よりも90%以上の項目が少ない。「F：生徒への接し方」、「G：学習への取り組み」が80%未満の項目に加わってしまった。項目Fにおいては、1・2学年ともに生徒主体の探究学習における担任からの声かけが不足したと考えられる。探究学習の手順ごとに細やかなアドバイスやフィードバックが必要とされる。項目Gにおいては発表準備の役割分担に偏りがあるのではないかと考えられる。それぞれの学習グループの人数にあった役割の種類を考え、作業量に偏りのないように準備・指導する必要がある。

総合的な学習の時間の後半では発表やその準備が主な活動になる。発表の振り返りまでを最終目標に定め、次年度の活動へと発展させられるように指導したい。

3. 教科毎の傾向（評価3，4の割合）

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	89%	86%	87%	86%	89%	80%	85%	91%
地理歴史	90%	79%	83%	85%	89%	77%	83%	90%
公民	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
数学	89%	74%	79%	88%	89%	82%	88%	89%
理科	80%	59%	68%	76%	80%	69%	77%	81%
芸術	95%	95%	94%	63%	97%	94%	87%	96%
体育	89%	94%	91%	83%	91%	88%	89%	94%
保健	86%	86%	79%	65%	87%	68%	75%	89%
外国語	82%	76%	75%	80%	82%	72%	85%	86%
家庭	85%	81%	81%	90%	82%	75%	80%	87%
情報	97%	82%	84%	58%	95%	78%	79.7%	95%
総合	80%	85%	83%	92%	83%	74%	79%	87%

参考1（2017年 第1回 生徒による授業評価）

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	95%	91%	94%	86%	96%	92%	93%	94%
地理歴史	94%	83%	89%	80%	94%	87%	87%	92%
公民	96%	82%	90%	98%	96%	88%	84%	94%
数学	91%	74%	81%	82%	90%	83%	90%	93%
理科	94%	76%	85%	82%	91%	87%	91%	93%
芸術	98%	94%	94%	88%	96%	97%	92%	98%
体育	95%	97%	94%	90%	95%	95%	94%	98%
保健	94%	93%	91%	79%	95%	85%	86%	94%
外国語	91%	82%	85%	91%	89%	84%	90%	92%
家庭	93%	85%	89%	83%	95%	86%	85%	88%
情報	99%	86%	91%	76%	96%	93%	90%	95%
総合	92%	92%	91%	97%	93%	88%	90%	92%

参考2（2017年 第2回 生徒による授業評価）

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	92%	89%	89%	87%	91%	87%	91%	93%
地理歴史	93%	82%	90%	85%	95%	86%	88%	92%
公民	97%	79%	93%	97%	95%	87%	85%	93%
数学	92%	82%	87%	88%	93%	88%	91%	93%
理科	95%	81%	87%	88%	91%	90%	92%	93%
芸術	97%	95%	95%	81%	96%	96%	91%	97%
体育	95%	98%	95%	90%	95%	92%	96%	98%
保健	94%	91%	91%	83%	97%	89%	88%	94%
外国語	93%	87%	89%	93%	92%	87%	91%	93%
家庭	97%	92%	96%	90%	95%	95%	92%	95%
情報	97%	85%	85%	82%	93%	88%	89%	96%
総合	91%	93%	91%	96%	91%	88%	91%	95%

#### 4. 教科毎の傾向の分析（項目毎に分析）

##### ○授業内容

###### 「A：授業の準備・教材の工夫」

すべての教科で 80%を下回ることはなかったが、90%以上の教科数が 4 科目に減少している。

###### 「B：授業の充実感」

90%以上の教科数が減少している。80%未満は 4 教科と多くなった。50%台がある。

###### 「C：授業の進め方」

90%以上の教科数が減少している。80%未満は 4 教科と多くなった。

##### ○指導方法

###### 「D：生徒主体の授業の工夫」

90%以上の教科数が減少している。80%未満は 4 教科と多くなった。また 60%台、50%台がみられる。

###### 「E：説明のわかりやすさ」

すべての教科で 80%を下回ることはなかったが、今回 90%以上は 4 教科であった。

###### 「F：生徒への接し方」

例年 80%未満が 1 教科もなかったが、80%未満が 7 教科であり、改善が必要である。

##### ○本人の取組状況

###### 「G：学習への取組」

90%以上の教科数が減少している。80%未満は 4 教科と多くなった。80%台も多く、「H：態度・姿勢」と比例している。

###### 「H：態度・姿勢」

他の項目より数値の減少傾向は小さいが、80%台が 6 教科であった。「G：学習への取組」の低下と比例している。